

令和4年度（2022年度）

# 自己評価報告書

学校法人巨樹の会  
武雄看護リハビリテーション学校  
理学療法学科・看護学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日

令和5年7月21日

学校長 太田 貞武

学校評価実施責任者

副学校長 磯邊 恵理子（令和4年度）

## 1. 自己評価の概要と実施状況

### 1) 自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

### 2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
磯邊 恵理子	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 副学校長
野村 晋広	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
中崎 満	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長
納富 裕子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務部長
秋山 嘉和	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長代行
古賀 恭子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務主任
工藤 広大朗	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務副主任
山崎 めぐみ	武雄看護リハビリテーション学校 事務係長
大宅 由紀子	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

### 3) 自己評価方法

令和4年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

## 2. 自己評価の内容

### 1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

S:十分に達成している。(達成度が高い)

A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

### 2) 自己評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

## 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

### 総括

「人間愛・自己実現」を理念とし、教育目標及び人材育成に関しては明確なビジョンが設定されている。学校長が朝礼や会議の際に教育目標を踏まえた学生指導体制について職員へ周知徹底されているため、全職員が「教育理念・教育目標」を把握し、学生・保護者また関係業界に説明、実践できる体制となっている。

実際に、来校者からも学生の態度について褒めていただくことも多く、信頼される社会人・医療人になるために挨拶や時間励行等基本的な部分も教育課程全般で学ぶことができている。また両学科とも、本校の教育理念・目的・人材育成像を踏まえたカリキュラムを作成し実践している。看護学科は、今年度より新カリキュラムが開始となった。地域・在宅看護の分野では、1年時の目標は概ね達成できている。

### 課題

看護師・理学療法士教育の在り方が大学化の傾向にあり、専門学校により求められるものも高くなっている。

### 改善の方策

業界ニーズを把握しながら常にカリキュラムの見直しを図っていく。看護学科は今後も新カリキュラムの内容を検証し、改善していく。

### 小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

### ■コメント

総括に記載の通り定められている。

### 小項目Ⅰ-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

### ■コメント

理学療法学科では、3月に保護者会を実施し本校の教育状況について直接伝達する機会を設けた。

## 小項目 I-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

新カリキュラムの中でもニーズに合わせた講義を実施している。

## 項目II 学校運営

## 総括

学校としての教育方針が毎年学校長より示され、それに基づいて学科ごとに管理目標を掲げ、個人目標を設定し、計画立案、実施、評価(中間・年度末)を行っている。

学生を学校行事等で前面に出し自主性を育てている。昨年度より学生が入学式や卒業式の司会進行も担っている。皆勤賞の学生も多く、基本的な生活習慣・学習習慣などを早期に身に付けるために周知徹底して指導している。

学校長を中心として指示命令系統は明確で、今年度の災害時にもスムーズに伝達がなされた。

業務に関してのICT化も徐々に進んでおり、職員・学生ともにGoogleアカウントを使用していることで、情報共有がよりスムーズに図ることが出来るようになっている。

## 課題

授業評価やアンケートなどをオンライン聴取することで効率的に収集でき、学生の意見をより確認しやすくなった。今後も、適宜業務効率の見直しを図っていく。

## 改善の方策

業務の効率化を進める中で職員の情報共有がおろそかにならないよう伝達の間を定期的にかけていく。保護者へのメール配信機能も上手に活用する。

## 小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

総括に記載の通り実施している。

## 小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

学校長を中心として指示命令系統は明確であり、自然災害時にもスムーズに伝達がなされている。毎週の管理会議、毎月の運営会議を1時間程度開催し職員への周知が行われ意思統一を図っている。

## 小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

法人職員との会議についても、オンライン会議システムを中心に開催されているため、移動時間を無くすことが出来、業務の効率化となっている。資料なども徐々にペーパーレス化を図っている。

## 項目III 教育活動

## 総括

両学科ともに学校理念や教育目標、カリキュラムに沿った、体系的で組織的な教育を実施している。コロナ禍で臨床実習や授業が難しい場合でも、学内実習やタブレット授業など臨機応変に対応できている。

## 【看護学科】

今年度から新しいカリキュラムになり、地域実習を通して地域の健康活動や地域包括の視点で様々な機関や職種を学習することができた。また、多職種連携では、講義と実習を効果的に組み合わせた職種についての学習、また、理学療法学科と連携して吸引の技術を合同学習で実践した。

タブレットの活用方法等は適宜ICT委員より説明され効果的に授業等の展開ができています。

## 【理学療法学科】

新カリキュラムとしての完成年度であり、特に臨床実習は指導者の要件も変わり、診療参加型実習となり実習施設との連携を図りながら実施した。また複数の教員が臨床実習指導者講習会の指導役としても携わるなど臨床指導者の育成にも貢献した。

## 課題

カリキュラムも変更しているため教育方法の工夫や検証を毎年実施していく必要がある。教員研修に参加はできたが、伝達講習など教員間での教育方法の共有、評価、研究により教育活動の活性化を図りさらにブラッシュアップしていく必要がある。

**改善の方策**

法人内の委員会などで定期的なカリキュラム内容の見直しを図る。授業評価結果については全体で情報共有しより良い講義方法について考える場を設ける。

**小項目 Ⅲ-1**

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

総括に記載の通り看護学科・理学療法学科とも新カリキュラムを作成し実施している。

**小項目 Ⅲ-2**

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

総括に記載の通り実施している。

**小項目 Ⅲ-3**

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

授業評価は学生・教員間ともに定期的実施しており、姉妹校教員ともオンラインでの授業評価を導入してみるなど、各教員の教育力向上に努めている。

**小項目 Ⅲ-4**

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

3年間を見据えて1年次から国家試験対策を導入している。先輩が後輩へ指導するなど縦の関係も構築している。

今後さらに国家資格取得後のキャリア形成についての指導も見直していく。

**小項目 Ⅲ-5**

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

法人主催の教育に関する研修や他団体主催の学会・研修会への参加を奨励し自己研鑽している。オンラインだけでなく、対面での研修会などにも参加できる職員も増えて資質向上や最新の知見を得ることが出来た。

**項目Ⅳ 学修成果****総括**

看護学科は12月中に全員就職内定(1名進学)、理学療法学科は2月初旬に全員就職内定を取得することが出来10年連続100%を達成した。

国家試験合格率:理学療法学科100%(38名/38名)看護学科97.5%(40名/41名)

退学者数:理学療法学科2名(進路変更)看護学科1名(進路変更)であった。

今年度も多くの卒業生が近況報告や後輩の激励などで来校してくれ、先輩と後輩の絆が深い。

理学療法学科では一部施設ではあるが、卒業生の就職先を訪問し卒業後の活躍状況を把握することが出来た。

**課題**

国家試験合格率100%を継続する。退学者0を目指す。

卒後の就業状況をアンケート調査し始めたため今後の学生指導に活かしていく。

**改善の方策**

今後きめ細やかな学生対応を実施し、上記課題の達成を目指す。また次年度も施設訪問を実施しアンケート数を増やして課題を整理する。

**小項目 Ⅳ-1**

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

各自の就職試験に合わせ、教員による指導に加えて学校長先生による履歴書、面接の個別指導までしていただいた。自信を持たせて就職試験に臨むことが出来ており、好結果に繋がっている。特に看護学科進学希望者へは学校長より繰り返しの小論文指導をしていただき無事に合格することが出来た。

**項目 Ⅳ-2**

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

教員一丸となって取り組み、チューター制でそれぞれの学生に応じた手厚い指導を実施している。

## 小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

両学科ともやむを得ず体調不良や進路変更のための退学者がいたが、学生の些細な変化に迅速に対応し精神的なサポートや学習支援は実施できていた。

## 小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

教科外活動やボランティア活動なども情報収集し把握に努めている。

## 小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

卒業生は、本校の学校関係者評価委員にも選任され、学校教育の改善に協力している。また、実習指導も後輩のために、熱心に指導・助言をしてくれている。卒業生の来校も多く、在校生へ就職へのアドバイスや、学習方法の指導等を協力してくれている。

## 項目 V 学生支援

## 総括

就職活動に関して、関連病院がある強みを学生達へ入学時より伝えるなど、自らのキャリアデザインについて考える機会を設けている。また外部講師による就職セミナーの開催を早期に実施し、学生個々の支援としては学校長・担任・副担任など教員全員で、履歴書、面接、小論文指導を行う体制が出来ている。

学生相談については、定期的に面談を行っているが精神的なサポートが必要な学生も増えてきており、保護者やスクールカウンセラーとの連携を図りながら対応している。

高校への訪問や進路ガイダンス、部活動支援など高専連携の構築を図った。

修学支援体制については各種あり。専門実践教育訓練給付金制度の認定も更新された。

## 課題

求人数は多いものの希望する施設への就職が厳しくなってくることも予測される。

## 改善の方策

就職活動について2年次からセミナーなどを行い早期に対策を図る。施設情報の把握をすることで個々の学生に合った施設への就職支援をしていく。

## 小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

求人数は多く、学生が随時情報を閲覧できるように整備している。就職活動は学校長を含め職員全員で支援する体制をとっている。また関連病院が本法人学生を優先的に採用してくれ、多くの学生が関連病院への就職に繋がっている。(約6割強)

## 小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

スクールカウンセラーが月に2回来校している。学生たちが自主的に相談に訪れ早期相談と信頼関係の構築を図っている。必要に応じて教職員との連携を図っている。

## 小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

今年度は保護者メールの活用が積極的にでき、保護者とも常に連絡・相談・報告など連携を図れている。また3月には保護者会を実施し学校生活についての情報共有を図った。(理学療法学科)

## 小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

専門学校部会とも連携を図りながら、随時高校側への職業案内を行っている。また学校見学も積極的に受け入れている。

## 小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

高等教育修学支援については、国からの通達など学内掲示板に加えて担任によるアナウンスを行い学生へ周知徹底している。

生活物価高に対する経済対策支援なども全学生へ実施した。

専門実践教育訓練給付金制度の利用学生も数名いる。

## 項目Ⅵ 教育環境

## 総括

教育に必要な物品の修理、新しい教材の購入を県の補助金を活用しながら学生たちが安全に使用できるように随時行った。

コロナ等の自宅待機者などにもスムーズにオンラインで授業へ参加できる様な体制となった。今年度はコロナ禍ではあったが実習施設の協力により臨地・臨床実習を概ね実施することが出来た。また数カ所の施設において新規に実習の受け入れをしていただいた。

防災に対する体制は定期的なアナウンスや訓練により学生・職員ともに周知されている。学生達の登校準備に併せて早朝に判断し一斉メールなどで周知している。

## 課題

学校も10年目を過ぎ、教材の劣化や不具合も認められ、更新する必要性が出てきている。実習に関しては引き続き感染対策を講じながら実習環境の整備が必要。

## 改善の方策

学内環境整備は優先順位を考えながら行っていく。臨床・臨地実習についても施設と協議を図りながら受け入れを依頼していく。

## 小項目Ⅵ-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

カリキュラムの中で必要な物品を随時追加している。学内環境については美化活動を推奨し、教職員も含めて学内外の清掃活動を実施している。整理整頓から始まるリスクマネジメントを徹底している。

## 小項目Ⅵ-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

## 【看護学科】

老健施設や産婦人科病棟での実習が一部実施できなかったが、学内でより臨床に近い学びができるように科目担当教員を中心に体験や看護技術の模擬実施ができるように取り組んだ。また、学生同士の学びの共有をする機会を増やして計画した。

## 【理学療法学科】

今年度より実習前後の学内実習が導入され、新武雄病院の理学療法士に協力してもらい、より臨床に近い環境での実技試験を実施することが出来た。実習後の経験報告会にも聴講に来てもらい、臨床教育者にも学生の教育状況を理解してもらうことにも繋がった。

## 小項目Ⅵ-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

## ■コメント

防災対策として、今年度は、佐賀県による出前講座も開催し、犯罪に対する啓蒙も行った。また自然災害に向けて、大雪の際は凍結防止剤などを早めに撒くなど年々早い対応を取ることが出来るようになってきている。連絡体制は今後なお一層大切である。

## 項目Ⅶ 学生の受け入れ、募集

## 総括

ガイダンスや高校訪問、佐賀県の専修学校部会とも協力しながら広報活動を行い、本校卒業生の就職・進学状況の情報や在校生の現状報告を実施している。

日々の学校生活状況は、ホームページ・SNS(Instagram・ブログ)を通じて広報を行っている。今年度、看護学科は早めに定員へ達したため、前期入試で募集を終了した。

理学療法学科は定員を満たすことが出来なかった。

## 課題

今年度はオープンキャンパスへの来校者数が減少した。今後さらに18歳人口減少が予測されているため、理学療法士・看護師の魅力を強く伝えていく必要がある。

## 改善の方策

卒業生やその保護者を通じて職種の魅力を発信していけるよう、SNSなどで日々の学校生活の様子や卒業生の活躍を取り上げていく。また教員が地域活動を実施していくことで地域との連携を強化していく。

**小項目 VII-1**

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

高校訪問時には直接担当教諭に在校生の生活状況として現状報告も行っている。  
部活動支援も実施し、高校生自らお礼の手紙や挨拶をもらう場面もあった。高校の校長先生及び教諭の方々の訪問も多く、可能な限り学内見学を通して学生の生活状況を直接見ていただくようにしている。

**小項目 VII-2**

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

ホームページやパンフレットにも資格取得や就職実績も掲載している。  
今年度は5月より予定通りオープンキャンパスや学校説明会も対面で実施し、本校の強みや資格取得について直接伝えることが出来た。参加者からの満足度は高く出願にも繋がっている。

**項目Ⅷ 財務****総括**

次年度予算については前年度経理・各学科新年度の事業計画を検討したうえで立案し、法人本部へ2度にわたり提出するなど学校の財務体制管理が行われている。  
運営は収支支出のバランスを取りながら有効的に利用している。  
経理監査は年に1回会計士により行われている。指摘事項はなく健全に運営している。  
予算や収支状況は適宜、管理会議などで伝達され教職員への伝達を図り、予算に沿った学校管理を行っている。

**課題**

物価や光熱費が高騰化してきているため、経費節約に関する職員と学生の意識を高める必要がある。

**改善の方策**

無駄な経費が発生しないように定期的に職員への注意喚起を行う。

**小項目 VIII-1**

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

学生数にも影響してくるため計画的に収支を考えていく。

**小項目 VIII-2**

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

総括に記載している通りである。

**小項目 VIII-3**

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

総括に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

**項目Ⅸ 法令等の遵守****総括**

各種法令遵守は行えている。個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。

**課題**

学生へは情報リテラシー指導を行っているが、実習中の個人情報の取り扱いを含め繰り返し指導が必要である。

**改善の方策**

学生への教育は太田学校長の講話の際にも時事問題として取り上げ説明していただいている。職員も引き続き意識しながら講義や実習の対応を行っている。

**小項目 IX-1**

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

**■コメント**

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。

**小項目 IX-2**

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

### ■コメント

学生の情報に関しては、広報等でパンフレットやテレビ放映、SNS での学校生活配信をする場合があるため入学時に学生へ説明し予め肖像権の承認を得て進めている。また情報リテラシー教育も行っている。

## 項目 X 社会貢献・地域貢献

### 総括

地域の要請に対応し、施設や機材の貸し出しを行った。新武雄病院の研修に利用してもらうなど、卒業後教育との協力体制も大事にしている。

看護学科では新カリキュラムでの地域実習で社会福祉協議会との連携し、武雄市内でのボランティア活動に参加した。理学療法学科では、西九州新幹線開通に併せて地域清掃活動を実施した。学内活動へのボランティアも含め自主性を促す関りを行っていく。

### 課題

地域貢献に対する活動に加えて、高齢者や障がいのある方々など職種として今後関わる方々との触れ合いも経験していく必要がある。

### 改善の方策

SAGA2024 障害者スポーツ大会に向けてボランティア参加予定としており、今後も積極的な参加を促していく。

### 小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適合

### ■コメント

総括に記載の通りである。

### 小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適合

### ■コメント

コロナ禍のためボランティア募集は少なくなっているものの、献血への協力や武雄市の市民会議などへ複数の学生たちが参加するなど社会貢献を行うことが出来ていた。学校行事についても地域清掃活動、除草作業やオープンキャンパス補助など積極的に活動を行った。